

あさひむら としよかん新聞

村立朝日村図書館発行

2023年6月1日

(第27号)

6月



「コロナが5類になりました」

5月8日に新型コロナウイルス感染症の感染法上の位置づけが、季節性インフルエンザと同じ「5類」へ移行しました。

3年以上にわたった新型コロナウイルス感染症対策は「有事」から「平時」の対応に大きく変わりました。皆さんの生活はこの1か月でどう変わりましたか。

図書館では、「コロナ前とほぼ同じ対応を」しています。例えば、机の使用は全席使用可能です。名簿に記入することなく好きな席を自由に使うことができます。パーテーションはすべて取り外しました。マスクの着用や手指消毒は来館者の自由となっています。

とはいえ、3年以上も新型コロナウイルス感染症対策をしてきたので、アルコール消毒器を見るという消毒したり、外出時にはマスクをつけたり、習慣でコロナ対策をしている方もまだまだ多いのではないのでしょうか。

「コロナが5類になり約1か月。3年以上にわたった感染症との戦いも徐々に落ち着きを取り戻しつつですね。」

「6月は食育月間」

「食育」とはなんでしょう。

農林水産省では「食育は、生きる上での基本であって、知育、徳育及び体育の基礎となるべきものと位置付けられるとともに、様々な経験を通じて「食」に関する知識と「食」を選択する力を習得し、健全な食生活を実践することができる人間を育てるもの。」とつづいています。

朝日村図書館には食に関する本が、子どもから高齢者が読むものまでたくさんあります。普段自分が食べているものがないものなのか、どんな料理に使われているのか、どんな栄養素が含まれているのか、知るだけでも、リッチな「食育」となります。そして食べることは自分の体や心に食について考えてみましょう。

図書館入口付近のおすすめ本コーナーに「食育」に関する本を展示しています。手に取って読んでみてください。

※この展示は朝日村住民福祉課としても行っています。

「図書館の本にふせんを貼らないで！」 ～本はとってもデリケート①～



ときどき返却された本に「ふせん」を貼ったままの本があります。

実は「やってはいけない」ことのひとつです。

なぜ図書館の本にふせんを貼ってはいけないのでしょうか？

ふせんは貼ってはがせる粘着の弱いものなので、貼ってもいいのでは？と思う方もいるかもしれませんが、はがすときに本にノリが

残ってしまったり、本が破けてしまったりすることがあります。

図書館の本は多くの人々が使用するため本を傷つける恐れのあることは「やってはいけない」のです。

読みかけの目印やもういちど確認したいところへは、ふせんを貼

る代わりにしおりを挟むといいですね。

図書館の思い出 石川 利恵

朝日村に引っ越してきてから現在までの約三年半、二週間に一回図書館へ通った。娘と二人で手を繋いで歩いて行った。息子が生まれて三人になり、いつしか主人も含めて四人で行くようになった。中へ入るとすぐに各々に別れて読みたい本を探し、かき集め、積み重なってできる本のタワー。「好きだからまた借りたい」「この絵が気になる」「この電車

かっこいい」と、心の思うままに選んでくる。あれもこれもと選んでいる時の子どもの表情は、宝物を探している時のように輝く。図書館にある本はどれも魅力的だ。子どもが選んだ本は、親である私たちも気に入って、一緒に繰り返し読む。本を介して子どもと幸せな時間を育める図書館に、これからも通い続けたい。

食べることは生きること～食育の本～

子ども向け



「いただきます」

監修：服部栄養料理研究会
出版：ポプラ社

子ども向け



「ハルシーせんたい
ダイズレンジャー」

作：やぎたみこ
出版：講談社

大人向け



「成功する子は
食べ物が9割」

著：細川モモ
出版：主婦の友社

世界には「正解」のない問題がいっぱい！

人によって「正解」が異なるであらう、家族・学校・社会をめぐって300の問題を収録しています。

「この正解のない問題が身近なところから社会・世界といった大きなところまで存在していることを知り、考えるための本です。」

「正解のない問題集～道徳編」
監修：池上彰
出版社：Gakken

